



過去の研修と
今後の計画

平成27年度 短期海外研修 GSR短期海外研修 報告

長崎大学経済学部国際ビジネス教育研究センター

GSR短期海外研修 フィリピン

経済学部 1年生 9人

2016年3月13日から22日 フィリピン大学ロスバニョス校

研修初日の表敬訪問にて学長より歓迎の言葉を頂き、研修を開始しました。大学ではフィリピンの経済と社会、農業ビジネス、企業家精神、人的資源に関する授業を受け、フィリピン経済や社会の現状及び課題を学びました。



フィリピン大学ロスバニョス校は農業に関する教育、研究に力を入れる国立の大学です。広大な大学の敷地内に大小の研究所があります。その中で、稲作の研究開発を行う国際稲研究所、植物の種子の開発改良を行う研究所、水牛の改良や乳製品の開発を行う研究所などを訪問しました。これらの研究所は研究開発だけでなく、最新の技術や経営方法に関する研修を農業従事者向けに行い、彼らの安定した生活の実現に貢献しています。

マニラでは、双日フィリピン会社を訪問しました。社長より、商社で仕事をするには誠意を持って接し良好な人間関係を構築することが大切であり、フィリピン社会への貢献を考え取り組んでいるという話を聞きました。企業にとって利益の追求以外にも重要なことがあることに気付かされました。

10日間の研修では、大学、研究機関、企業が様々な形でフィリピンの社会に貢献している現状を学ぶことができました。また、学生交流を通しフィリピンの文化や習慣にも触れ、多くの刺激を受けることができました。参加したそれぞれの学生が社会に対する視野を広げ、今後の学修課題を見つける貴重な機会になりました。



長崎大学経済学部は、国際ビジネス (plus) プログラムを開設して2年になりました。ここに報告するGSR短期海外研修は、プログラムに取り組むにあたって、視野を広げ、学修目標を明確にするために設けられた科目です。2期生31人が、タイまたはフィリピンでの10日間の研修に参加しました。

GSR短期海外研修 タイ

経済学部1年生22人

2016年2月21日から3月2日 チュラロンコン大学

バンコク中心部に巨大なキャンパスを持つ、タイでトップの大学を訪問しました。チュラロンコンとは明治時代に欧米列強からの独立を守った、偉大な国王ラーマ5世の幼名です。学内では、経済学部生の受講するマクロ経済学や英語発表力養成の授業に参加したほか、商学部の教員から生産管理に関する特別授業を受けました。

学外では、日本トランスシティー社のタイ法人に勤める卒業生カニターさんの取り計らいで、バンコクの南東 120km アマタシティー工業団地にある同社の物流倉庫を訪問しました。その後、貨物取扱量が世界 20 位というレムチャバン港を見学し、貨物ターミナル運営会社 ESCO で詳しい説明を聞きました。



バンコクでは、世界税関機構アジア大洋州地域キャパシティ・ビルディング事務所の所長や、双日タイ会社の社長から、学生向けに分かりやすい、そして熱い授業を受けました。



休日にはタイの学生と一緒に世界遺産アユタヤを訪問するなど、タイの歴史的背景に触れる体験をしました。チュラロンコン大学の教職員と学生による、おもてなしを全日程を通して感じ、タイが多くの日本人観光客を集める理由を実感しました。

短期海外研修 アメリカ

経済学部学生 7 人（2 年生 4 人、3 年生 3 人）

2016 年 2 月 26 日から 3 月 12 日

カリフォルニア州立大学サンバーナーディーノ校（CSUSB）



短期海外研修は、すべての経済学部生を対象とした 2 単位の演習です。CSUSB での研修は 4 回目となりました。大学では、企業の社会的責任（CSR）、ビジネス習慣の違い、世界経済などについて、アメリカの視点で進められる授業を受けました。このほか、トヨタ北米部品センター、太陽光発電のソーラーマックス・テクノロジー、ディズニー映画の特殊効果などを手がけるガーナーホルト・プロダクションを訪問し、企業の環境に対する配慮、勤務場所の自由な雰囲気など、多くのことを学びました。



今回の研修では、新しく 2 つの内容が追加されました。1 つはサンフランシスコ訪問です。ホテルに 3 泊し、優雅な町並みを見ながら、世界的観光都市を散策しました。

もう 1 つはホームステイです。10 日間アメリカ人の家に住み、毎日の朝食と夕食のほか、昼食のお弁当までお世話になりました。朝夕は大学まで自家用車で送迎されました。アメリカの家庭生活を通しての異文化体験は、今後の視野を広げるための、貴重な経験となりました。

